

# 第4回 湖西市総合戦略有識者会議

## － 議 事 録 －

日時：平成28年3月15日（月）14：00～15：35

場所：湖西市健康福祉センター（おぼと）3階特別会議室

### ○出席者

	氏名	分野	職業・役職等	出欠
委 員	◎竹田 聡	教育	愛知大学 地域政策学部 教授	○
	○竹島 清一	住民代表	湖西市自治会連合会長	○
	伊藤 健	医療	湖西市医師会会長	○
	彦坂 克巳	福祉	特別養護老人ホーム光湖苑 施設長	○
	袴田 雄司	教育	湖西市教育委員会委員	○
	柴田 和利	産業振興	湖西市商工会 事務局長	×
	内山 安弘	産業振興	新居町商工会 事務局長 新居町観光協会 事務局長	×
	彦坂 初保	産業振興	湖西市農業振興協議会 会長	○
	森下 展安	産業振興	プライムアースEV エナジー(株) 経営管理部主査兼経営企画グループ長	×
	高柳 陽子	子育て	なぎさ保育園 園長	○
	高林 宏明	地域公共交通	遠州鉄道(株) 運輸事業部長	○
	飯田 宣子	交流・ 移住促進	湖西市教育委員会委員 NPO 法人新居まちネット 理事	○
	渡辺 真一	金融	静岡銀行 湖西支店長	○
	安形 秀幸	金融	浜松信用金庫 法人営業部 地方創生戦略推進センター長	○
	野末 ゆかり	労働	湖西地区 労働者福祉協議会 事務局次長 静岡県労働金庫 湖西支店長	○
	日比野 雅彦	報道	中日新聞東海本社 報道部長	×
	飯田 勝義	行政	湖西市企画部長	○
	高柳 益彦	行政	湖西市健康福祉部長	○
	青島 一郎	行政	湖西市市民経済部長	○
事務局	鈴木 徹	湖西市 企画政策課 課長		○
	小倉 英昭	湖西市 企画政策課 課長代理		○
	岡部 雅史	湖西市 企画政策課 主任		○
コンサル タント	平田 雅也	玉野総合コンサルタント(株) 静岡支店		○
	堤 博紀			○

◎：委員長 ○：副委員長

### 1. 開 会

### 2. 委員長あいさつ（竹田委員長）

こんにちは。今日で第4回目になりました湖西市総合戦略有識者会議、取りあえず今日で

総合戦略の最終案を固めたいというふうに思っております。前回までに湖西市の人口ビジョンと総合戦略の素案を出してきました。そこでの議論を踏まえまして、湖西市の人口ビジョンに関しましてはほぼ固まったというところです。図表のところとか一部ご指摘をいただいた点は反映して、湖西市人口ビジョンに関してはほぼでき上がりました。今日は総合戦略の最終案を確認して審議をしていただくということと、もう一つ、お手元の大きなA3の紙、平成26年度の補正予算で行われました「地方創生先行型交付金の効果検証シート」というのがあるのですが、こちらを審議する、確認していく、大きくこの2点を今日はやりたいと思います。では、よろしく申し上げます。

### 3. 議事

#### (1) 総合戦略の概要報告について

<事務局>

説明

#### (質疑・意見交換)

<委員長>

- ・ありがとうございました。これを3月28日に公表予定ということですので、一応今日で最終案を確認する、認めるということになります。もし何かありましたら今お願いしたいと思います。
- ・ちょっと一つ気になっていたのですが、4ページに2060（平成72）年に48,000人程度の人口確保」と書かれていて、そのあと7ページから「基本目標」が出てくるわけですが、「目標値」のところに「(H31)」と書いてあるところと書いてないところがあります。例えば6ページの「数値目標」などは「平成31」という記述がどこにも出てこないの、これはどこかに書いておいたほうがいいかなと思います。
- ・「目標値」のあとに「(H31)」と入れるか、あるいは、例えば7ページの一番上の表だとしたら、「目標値」の横でもいいですし、あるいは、「現況値」のところは「(H25)」と入れていますので、「目標値」のあとに「(H31)」と入れるとか、本当に幾つかですが、書いてあるところもあります。一部「目標値」のところ、いつまでというのが読んでいてわからない。
- ・15ページの「目標値」もそうです。合計特殊出生率の一番上の表も、「目標値」の横に「(H31)」と入れるか、「1.75」のあとに「(H31)」と入れるか、そこはちょっと補足しておいたほうがいいのではないのかなと思いました。いずれにしても基本的には、主な目標値は31年の目標値ということですよ。
- ・ほかに何かありましたら今お願いしたいと思います。
- ・では、これを今月末、3月28日に公表するというので、よろしくお願ひしたいと思います。
- ・続きまして(2)の地方創生先行型交付金実施事業の効果検証につきまして事務局から説明お願いいたします。

(その他、特に意見なし)

## (2) 地方創生先行型交付金実施事業の効果検証

<事務局>

説明

(質疑・意見交換)

<委員長>

- ・ありがとうございました。今までで総合戦略と効果検証シートの二つのご説明をいただきました。これまでの説明に対して質疑等ありましたら挙手をお願いします。ご質問等でも構いませんので何かありましたら挙手でお願いいたします。

<伊藤委員>

- ・9番の「バス事業運行」のコメントで今後のことについてですが、「今後はガイドブック作成や買い物ツアーなどの利用促進策を積極的にすすめ、利用者数の増加に繋げる（ことが課題である）」と書いてありますが、具体的には乗り継ぎのところの問題がけっこうあって、年寄りが乗り継ぎをするのがとても大変だということがある。例えばコミュニティバスの乗降口をもう少し年寄りが乗りやすいような高さにするとか、乗り継ぎの場所は明確にわかりやすいところに（して）、年寄りが迷わずにすむような方策をとるとか。
- ・買い物ツアーといっても今自分で買い物をしてそれを運ぶのもなかなか大変だと思うので、コミュニティバスの利用もそうですが、買い物客にとっての何か、買い物先でその買い物したものを自宅まで運んでもらえるサービスというようなことも考えたりして、バスの運行をもう少し活用できるような具体的な施策を進めてほしいと思います。
- ・結果的には、27年度は、1日当たり11人の乗客が、鷲津循環バスを路線にしたことによって14人となったということですが、さらに増やすにはもう一工夫、二工夫要るのかなと。もうちょっと市民の声を、アンケートをとって、どういうふうにしたらいいかというところへもう少し力を入れてほしいと思います。
- ・買い物ツアーや利用促進策ばかりではどうしても。利用する人の目線に立ってやってももらわないと多分これ以上人数は増えないかなと思います。
- ・老人クラブの会長さんも今日来ています。そのことについて、今まで老人がバスを利用するのは大変だったということもありまして、乗り継ぎの点とかそういったことももう少し。雨の日とか天候を考えた乗り合い場所を考えてほしいなど、私の意見です。すみません。コメントです。

<委員長>

- ・声を吸い上げるようなかたちで、いろいろな工夫をしていただくようなかたちでやっていたかかないと、なかなか目標値達成というのは厳しいかと思います。今ご意見をいただいたようないろいろなアイデアがあると思いますし、あと、声を吸い上げるということがどういうやり方でやるかというのはいろいろあるかと思いますが、そういう努力もしながらやっていく、そういうかたちで目標値達成を目指していく。そうしないとなかなか厳しいのではないかというご指摘だと思います。ほかによろしいですか。

#### <安形委員>

- ・感想ですが、1番の「中小企業販路拡大出展事業費補助金」ですけれども、コメントのところに、「申請者が偏る傾向にある」と書かれていますが、28年度も同様にこの事業がこちらに書いてありますが、出展は先着順なのか、審査をして選んでいるのかよくわからない。一部、町企業が出てきて出展。企業数が目標値までいっていれば（取組評価が）「A」ということでいいのかなというちょっと疑問があります。
- ・例えば出展をした企業がどのぐらい商談件数があったとか、何かそういう目標でもいいのかなという感想です。
- ・もう1点、3番の「技術自主開発事業費補助金」は、27年度の（「事業概要・目的」）のところは「積極的な技術開発による新たな雇用の創出を目的に」と書いてありますが、目的がそこにあるならば、目標値【「重要業績評価指標（KPI）」】の「研究開発件数」とはちょっと整合性がとれないのかなという気がしました。
- ・28年度の計画については、新たな雇用創出の目的というのは書いてないものですか  
らいいかと思いますが。感想です。以上です。

#### <委員長>

- ・まず1番のところでご質問にあった、どういうふうに決めているんだ、早いもの順なのかとかそういうのはわかりますか。

#### <青島部長>

- ・結局、出展というか、展示会の時期が当然ありますので、最終的に先着順位になっているのが現状です。結局、予算がなくなればそれで終わりというところが出てくる可能性があります。今のところ予算が足りなかったということはないのですが、現実それはあり得るという話です。
- ・確かに偏っているという課題がありますので、そういったところを解消するためにも、補助の仕方といいますか、企業の決定については少し検討をしないといけないなと今ご意見をいただいて感じましたので、28年度のほうはちょっとその辺は検討させていただきたいなと思います。
- ・3番目の技術自主開発のところは、雇用の創出は確かに結果としてそういうこともあり得るというのはありますが、目的として、目標としてそこは前面に出しているところではない。やはり企業の新技術の開発ということで、どちらかという改善とか効率とか。
- ・あと、新商品ということになれば、それが当たれば確かに業績が上がりますので結果として雇用の創出というのはありますが、ここで目的として掲げるにはちょっと違うのかなというのも少し感じました。
- ・しかし、まるっきりないわけではないということでご理解をいただきたいなと思います。以上です。

#### <委員長>

- ・今、1番のところ、KPIは、出展件数ではなくて、その後の商談とかそういうのをフォローできないかというご質問もあったと思います。

#### <青島部長>

- ・その点について、実績報告の中では、商談がどのくらいあったとかいう数字はいただいているのですが、交渉があったというのであればある程度載せられるかな、と。それが契約・成立までいくかということ、すぐには結果として出ないところがありますので、確かに出展すればいいわけではなくて、出展をしたあとの企業さんの商談、それから契約に結び付くというのが大事なかなという思いはあります。
- ・企業さんも、全額をわれわれが補助しているわけではございませんので、当然自己負担もありますし、労力も使われています。その辺は、ただ出展をすれば（いい）というお考えではなくて、出展をするということは、それなりに企業さんも非常にやる気のある行為、行動かなということではございます。もしおっしゃったような商談件数とかそういったことをうまく目標値に数値で出せるようであれば、そういったものもKPIのほうに考えていきたいなと思います。以上です。

<委員長>

- ・よろしいでしょうか。では、ほかに。また挙手でお願いします。

<飯田（宣）委員>

- ・5番の「のびのび預かり事業」と7番の「子育て支援広場事業」は、新居にある子育て支援センターだけではなくて、西部とか北部の人も行きやすいようなところに拡充されたというのはとてもいいと思います。
- ・それから、その利用者も増えているということです。回りの小さいお子さん子育てしている方からも、こういったところを利用したい、こういったサービスを知りたいというお母さんたちがけっこういらっしゃいますので、こういったことを進めていただいたというのはとても意義のあることではないかなと思います。
- ・それと、一つちょっと思ったのが、6番の「子育て支援ガイドの作成事業」ですが、こちらは「子育てに関する総合的な情報の提供」とありますが、子育てといってもとても幅広いと思います。幼児から小学生、中学生、高校生と子育ては広いのですが、これの配付予定は児童（のいる世帯となっています）。「児童」といっても小学生（を持つ家庭）だけでしょうか。

<事務局>

- ・「児童」というのは、18歳未満の子を持つ世帯へ配付させていただきます。ここに書いてありませんが、すべてで1万冊を印刷して、18歳未満の世帯は5,800世帯ございますので、それだけ配付し、残ったものについては、各施設、子育て関係窓口、あと、転入時に配付させていただきたいと思っております。

<飯田（宣）委員>

- ・新たに、お子さんが生まれたときにはその都度配付しているということですね。

<事務局>

- ・そうですね、出生届を出したときとか、そういうときに配付させていただきます。

<飯田（宣）委員>

- ・はい、わかりました。ありがとうございます。

<事務局>

・一応こんな感じ。今日ちょうど持ってきましたので。

<飯田（宣）委員>

・内容はどんなことが書かれているのですか。

<高柳（益）委員>

・すごく細かいのですが、なんだったらあとで回します。（記載されていることは）かなりあります。相談、楽しむ仲間づくり、預ける、手当て関係、あと、検診関係というような、すべて一応入っています。

<事務局>

・それは市で行っていることだけでなく、民間で行っているものとか。

<高柳（益）委員>

・民間のは入ってない。行政がベースです。

<飯田（宣）委員>

・行政で行われていることももちろん知りたいところですが、行政が行っているサービスに入りきらないのは民間でやっているところを探しています。  
・例えば冊子にしまうと更新、更新が大変だとしたら、そういうことをやっていることをホームページ等に随時、民間とか、NPO団体とか、市民活動団体がやっているようなサービスも例えば載せていって、これは更新をしていく、ここを見ればそういうものが一覧で見られますよというところがあるとありがたいなと思います。

<高柳（益）委員>

・民間と行政の両方本来作るのがベストだと思いますので。私、ちょっとほかのことの話はしますが、高齢者の方法は、民間と行政の両方を把握した中で一応作っていますので、そういうかたちができるばなと今後は思っています。一応そういう指導をしていきますので。

<飯田（宣）委員>

・よろしくをお願いします。

<伊藤委員>

・今の子育て支援ガイドについていいですか。人口が流入してくる場合、他県からとか遠くから来た人たちが、どこの保育園へ預けていいかかなり相談に来るときがあります。そこに住んでないと入れない保育園なのか、それとも湖西に住んでいたらどこでも行ける保育園なのかということをよく相談を受けます。そういうガイドみたいなのもこれに（載せるのは）難しいね。子育て支援のほうで保育園紹介コーナー、そういうのは載っていますか。

<高柳（益）委員>

・学校、教育委員会だものですから、今。だから、しおりの中には一応ありますので、ちょっと待ってください。

<伊藤委員>

・そういうのがあると便利かなと思ひまして。

<高柳（益）委員>

・そこまで細かくは、この中には載ってないです。

<伊藤委員>

・その相談窓口みたいのがホームページで紹介されるようなことも開始してもらえるとありがたいなと思います。国会でも（話題になっていますが）、あんなツイッターでわあっと言ったらわあっと「私だ」なんていうような、そんなふうになっていきますので。湖西市も育てられるところがわかれば、いつ湖西市に来ても安心だというような、環境づくりの一つとしてそういった情報も幅広く取り入れてほしいなと思います。以上です。

<事務局>

・一応子育て支援ガイドの19ページに「子どもを預けたい」というページがございます。保育園の所在地とか電話番号、あと、保育料関係は一応載せているというような状況の資料になります。

<飯田（宣）委員>

・今の（話）に関連してですが、もし保育園に入りたいということで希望されていたり探されたりする場合には、湖西市教育委員会の中の幼児教育課が担当しまして、ホームページにも窓口とかについては掲載しています。  
・今、保育園だけでなく幼稚園も、例えば、長期の、夏休みとか春休みでも子どもを預かれるようにだんだん切り替えています。場合、場合、状況によってどういうサービスがいいのかということもあると思いますので、窓口のほうに、幼児教育課のほうに連絡していただくと、まずはわかりやすいと思います。

<高柳（益）委員>

・一応、次のページの幼稚園のところには載っていますので。課も、今言ったように幼児教育課ということで記載をさせていただきました。

<委員長>

・ほかにご質問やお気づきの点がありましたらお願いします。

<伊藤委員>

・これは1年間で、国からの予算で、5年をめどに、だと思いましたが、1年間に5,000万円でしたか。1年区切りの予算で5,000万円でしたか。5年間ですね。

<事務局>

・今検証していただいている1から10までの10事業で1,800万円ぐらいになります。

<伊藤委員>

・継続として31年まででしたか。

<事務局>

・ほとんどの事業の継続はしていきますが、国の補助金をいただけるかどうかはまた別の話になります。ここに載っている事業は28年度も展開をしていく事業です。

<伊藤委員>

・4番の「栽培漁業振興事業」の取組評価は「E」となっていますが、次の年はもう実施しないと評価になりますか。

<事務局>

- ・実際、今回この事業では交付金がいただけるということで通常やっている3倍ぐらいの事業展開をしました。実際に稚魚を放流するものですから、実際の収穫は1年とか1年半先になるのではないかなと思われまますので、来年、再来年の漁獲量に期待をしたいというところになります。

<伊藤委員>

- ・例えば、浜名湖で放流した――稚魚なり稚ガニなりにマークを付けて放すんじゃない？ 大体が。

<青島部長>

- ・それができないんですよ。マークはできない。わかんないんですよ、結果。

<事務局>

- ・脱皮しちゃうので。

<青島部長>

- ・そこができるといいんですけど。

<事務局>

- ・DNAまで見ていけば。

<伊藤委員>

- ・うちのガニが向こうへ行ったというのが。

<事務局>

- ・実際に、放流によってどうなのか。当然浜松のほうでも同じように放流はしています。

<伊藤委員>

- ・地域一帯で浜名湖の周辺の人たちが、漁業組合でやる事業として湖西市も参加するというようなかたちの事業に位置付ける。アサリはそうだね。アサリはそういうふうにやっていますので、エビやガニもいずれは浜名湖周辺の他市と共催してやっていく事業の一つとして継続ができれば、継続するだったらそういう方法しかないかなと思いました。

<委員長>

- ・コメントのところにも出ていますが、1年ぐらいかかるということ。あと、ここで出したものが浜松市のほうとられているとかそういうことが起こり得る話なので、なかなか難しいところですが、一応、目標値は湖西市での目標値ということで今回は出しています。
- ・データ自体は全体でもとれるはとれる。

<事務局>

- ・そうですね、浜名湖全体でもとれますし。

<伊藤委員>

- ・浜名湖の漁獲量が去年よりどれだけ上がったとか。逆に、うちの湖西のほうも行っているからという検証にもなるしね。
- ・その幅を広げて、湖西、鷺津港でとれた数だけじゃなくて浜名湖全体の漁獲量はどうかという比較も載せたらどうかかと、コメント。



<事務局>

- ・そうですね。放流量と全体を見ながら検証していかないと、なかなか因果関係はわからないと思います。
- ・ちなみに、湖西市のお金で稚魚をまいてもらうのは浜名湖西岸で、入出とか横山とか限りなく湖西市側で放流をしているそうです。

<伊藤委員>

- ・まあ、そんなところです。

<高柳委員>

- ・5番の「のびのび預かり事業」ですが、現状、一時預かりを新居のほうでやってくださっていると思います。詳しい内容はちょっとわかりませんが、保護者の中ではやっぱり現状では利用しにくいというのかな（そういう意見があります）。午前中のみとか、お昼はおうちで食べてくださいとか、午後預かりますとかいうようなかたちで。
- ・うちは今保育園をやっていますが、保育園というと、それこそ朝7時から、一時預かりでも6時ぐらいまで預かっています。そうすると、そういう長いところへ預けたいというか、利用も今すごく多いです。なかなか入所できない方が。
- ・ですから、利用者のニーズに合うような内容を。一預かりという制度というか事業はすごくいいと思いますが、やはり利用する人が利用しやすいように内容をもう一回しっかり検討していただけるとうれしいと思います。

<事務局>

- ・それは、希望はいいですが、人が要る話ですので、はっきり言って一番難しいことです。そういうことは意見として聞かせていただいて、今後の検討課題ということには言わせていただきたいと思います。

<委員長>

- ・今のところ、利用者数だけを見ると、健闘しているといいますが、実績を上げている事業ではあります。人の資源の問題とかもありますので難しい面もあるのかなかと思いますが、意見としてはお伝えしたいと思います。

<事務局>

- ・皆さんわからないと思いますので。一応、今、水木金対応しているという状況になっています。水曜日は先ほど言ったように午前中子育て支援センター、木曜日につきましては午前と午後、金曜日については午前中をこちらのおぼとでというふうにさせていただいているというのが現状でございます。

<高柳委員>

- ・本当にそのとき、例えば「免許証の書き換えに行きたいです」とか、「美容院に行きたいです」とか、「病院に行きたいです」とかいう方はこういうところもいいですが、「一日利用したいです」とかになるとそれができませんよという感じ。「一時的にちょっと体調を崩してしまったので一日子どもを預けてゆつくりしたいです」とか、何か理由があって一日見てほしいと言ったりしたときとか、今、待機児童、ここは「待機」と言わないで「入所待ち」と言いますが、そういつて入れないとか、毎日

ではないけれども週3日程度パートで仕事へ行くのでちょっと見てほしいとかいったときに、こちらの市の一時預かりの利用の仕方だとなかなか預けられない。

- ・水木金だけという、やっぱり今保育園のほうをすごく利用してきますが、保育園のほうも入所児プラス一時預かりをしていくものですから、部屋とか職員体制とか。すぐにいいですよと言ってあげないと、保護者のほうが。
- ・私たちも、「市のほうへ」とか、「ファミサポさんはどうですか」とか声は掛けさせてもらっていますが、なかなか。もうちょっと幅広く一時預かりをしてもらえると。また検討してみてください。ちょっとここと違ってしまうのかもしれませんが、ごめんなさい。

<伊藤委員>

- ・企業によっては、大きな企業は保育設備がありますね、そういうのを利用、民間の力を利用することも必要かもしれませんね。

<高柳（益）委員>

- ・行政はここまでで、あとは民間の地域力という中で対応していただけるような。先ほど飯田さんが言われたように、そういうことをやってらっしゃる人もいるというのも聞いていますが、今の役所が欠けているところは、そういう情報をデータとして収集して、それを発信するということがされていけませんので、そういうことをやれば、今言われたような（問題）はクリアしていけるかと思っていますので、そういうことのほうをちょっとしていきたいなと思っています。

<袴田委員>

- ・2番の「高校生に対する職業訓練」というところですが、平成23年度からずっと100%で就職内定率はいいですよというところはわかりますが、そのあとに、コメントのところ、市外に就職する方のほうが多いですよ。今まではどういう流れでしたか。市外に就職される方が増えてきているのか、それとも減ってきているのか。今後、市内に就職する方を増やしていこうという流れになっていくのか、そういうところがあるといいかなと思います。

<委員長>

- ・これによって増えたか減ったかとか、そういうのはおわかりになりますか。

<青島部長>

- ・ここにあるのは27年度ですよ、このコメントは。以前はどうかということですよ。今私の手元にその資料があるかどうか。資料を持ち合わせてないので、その前の年度がどうだったか、すみません、今わからないのですが、われわれとすれば、市内に就職してもらいたいというのは思っています。皆さんも思っていると思います。
- ・これは、引きとどめるわけにはいかないところもあって、高校生というか、就職する方の自由のところなので、それを。
- ・どうしても湖西市内は製造業が多いというのもあると思うんですね。高校生の方で製造業に勤める方は多いとは思いますが。
- ・湖西市内は働く場所はたくさんあると思うんです。それでも市外へこれだけの方が、

高校生が行ってしまうというのはなぜなんだろうというのは、確かに、ここは検証してない部分だと思うんですね。それこそ、市内ではなくて市外のどういうところへ勤めたのかというところを追っていかないと本来いけないと思います。今それはされてないので、そこをやっぱりやって追跡調査をしないと本当の理由はわからないところかなと思うんですね。それは必要なんでしょうね。

- ・逆に、58人が市内ですが、それで市内の企業がいっぱいになっているかという、今度、逆に市外から湖西の企業へ来ている方がいるわけですね。
- ・だから、そこは、高校生が市内を望まないのか、それとも、企業でその子たちが例えば不採用になって市外へ行ってしまっているのか、その辺もちょっと検証ができてないので、そこは検証する必要があると私も思っております。が、現状できていませんので、すみません、ちょっと理由がわからないです。
- ・製造業以外の職種へという、やっぱり豊橋、浜松へ通える圏内ですので流れている可能性はあるかなとは思いますが。市内にないような業種に勤めたいという子らはやっぱりまちのほうへ、豊富なところへ行ってしまおうというのはあるのではないかなというのは、予想はしています。また追跡調査をしてみたいと思います。

<袴田委員>

- ・展示会にも高校生の方がたしかいっぱい来ていただいたような記憶もあるので、ちょっとずつ市内の企業もアピールしていくようなことも必要なのかなということも。

<青島部長>

- ・企業さんにもそういうところを求めたいところがありますので、行政とすれば、高校生というか子どもたちにもそうですし、企業さんに対しても、なるべく市内の子を採用してね、と。
- ・ただ、市役所なんかでも地元の子だけを採用しているかという、やっぱりそうではなくて、採用試験をやったときに、成績とか、面接だとかをやって選んでいくと、市外の人を採用するというケースもありますので、企業さんにも、地元ならいいというわけではないと思います。やっぱりその会社に合っている、合っていないという子らを採用でふるい落とししていくという部分があるとは思いますが、ちょっとその辺は検証をこれからさせてください。

<袴田委員>

- ・わかりました。

<委員長>

- ・特に湖西や新居高校の生徒に関しては、進路指導の先生なんかは多分かなり把握されていると思いますので、話を聞いてみればかなり実態がわかるのかなという感じがします。

<飯田（宣）委員>

- ・10番の「消防団員確保促進事業」ですが、26年度よりも27年度は1名の増加になったということで評価は「B」ですが、消防団員の募集チラシを40,000部作って配布して1人確保、それは減っている方ももしかしたらいらっしゃるかもしれないので、プラスマイナスで1名ということだと思いますが、これは評価的に「B」でい

いのかどうかというところなのですが。

<委員長>

- ・ AとかBとかは、一番右上に出ていますように、機械的に達成率で出しているかと思いますが、1名退団して2名入団して1名増加ということのようです。
- ・ これだけチラシを配ってこれだけしか入らないというのは確かにあるんでしょうけれども、どこも集めるのに苦労しているというのはいろいろな自治体であるようです。何かおわかりになることはありませんか。

<事務局>

- ・ 今、先生からもお話があったように、27年度の実績としては、1人退団したところへ2人入団、結果1名増というところまでしか聞いてはいません。
- ・ チラシも45,000部刷ってはおりますが、全部1年で使ってしまうかどうかは定かではないので、ちょっとそこら辺はまた確認をしておきます。
- ・ ただ、消防団員はなかなか。サラリーマンが増えたり、市外で勤めている方とか多いものですから、どうしてもなかなか、入らない、入れない、活動できない。
- ・ 実際話を聞くと、夜の訓練とかには参加はできるけれども、有事の際はやはり来られないという方がけっこういるという話は聞いています。
- ・ そういった面でも、やはり地元の企業に極力就職をしていただけたらなというところへつながってしまいます。
- ・ 消防のほうでは、団員確保というのは重要な課題になっていると聞いています。

<飯田（宣）委員>

- ・ チラシだけではなくて、いろいろ声掛けとかしていただいているということですね。

<事務局>

- ・ そうですね、当然地元の先輩や同級生のついでで勧誘はしていると思われま。なかなか増えていかないというのが実情だそうです。

<渡辺委員>

- ・ 先ほどからいろいろ議論が出ている、この「A」だ「B」だというかたちですが、書き方の問題として、例えば8番の「母子保健相談事業」のところは冒頭で「C」ということでお話がありましたが、何でここだけ厳しいのかなと思ったら、これは増加目標になっているんですね。ほかのところは、おそらく今までの累計件数というのか、延べ人数というのか、その人数でもって判定しているので、母数が大きくなってくると、みんなA判定になりやすい。
- ・ なので、できれば、100%そうはできない部分もあるでしょうけれども、増加目標件数というふうにしたほうがわかりやすいのではないのでしょうか。

<委員長>

- ・ そうですね。項目によって作り方が違ってきますけれども、いかがでしょうか。どうでしょうか、事務局から。
- ・ 事業の性質として増加率にできないものも確かにあるかと思いますが。子育て支援ガイドの場合は世帯（数）を目標数値にしていますので、そもそも世帯が増えなかったら、この事業だけ増加（目標件数）にするというわけにはいかないでしょうし、

いろいろそれはあるかとは思いますが。

<事務局>

- ・ 8番のこのパーセント、指標は、「対象者分の受講者」での数字なんですね。それを前年度比でやってしまっているのかな。違う。ちょっとまた確認をしておきますが、指標によってはふさわしくないとり方というのは確かにあるかと思いたすので、もう一回、今後こういった検証をやる際には、まず評価のKPIを何で定めるべきなのから考え直していきたいと考えます。
- ・ 8番の「H27年実績値」の「36%」と「35%」の計算式ですが、まず、36%のほうは、対象者185人に対して受講者67人で36%となっております。下の35%は、対象者87人に対して受講者34人で35%というふうになっております。目標値はおのこの35%ということで目標を達成している、イコールA評価というふうにつなげてあります。
- ・ ただ、ここで問題になってくるのは、26年実績値が43%にもかかわらず、目標値は35%とちょっと低めの設定がされていていいのかなというところがあります。

<委員長>

- ・ 受講率は下がったけれども、目標値が低かったからA判定になったということですよ。

<事務局>

- ・ そうですね。

<委員長>

- ・ 目標値自体が適切だったかということなのかなと思いますので、そこら辺はまた検討していただくということでよろしいでしょうか。ほかにいかがでしょうか。

<青島部長>

- ・ 個別の話ではないですが、次第を見ると、(1)、(2)でそれで閉会になってしまいそうなので。全体的なことですが、今がいいのか、皆さん、この(2)についてないということになれば、そのあとでもいいですが、ちょっと。

<委員長>

- ・ 今までは(1)と(2)を併せてやってきたんですが、もっと全体の話に進んでよろしいでしょうか。ではお願いします。

<青島部長>

- ・ 私、行政の立場でこんなことを聞くのも申し訳ないですが、有識者会議の委員の皆さんの任期は2年ということでいいですよ。設置要項を見ると任期2年ということで委嘱をされているわけですが、実際にはそれぞれ各団体の代表というか、例えば支店長さんとか、われわれなんかも役所の中の市民経済部長なのでということですが、そうすると、当然、年度が変われば人は代わる可能性があるわけですよ。そういうことですよ。28年度も有識者会議は開かれていくんですよ。

<事務局>

- ・ そちらは最後にちょっとお話をしようと思っていたところですが。

<青島部長>

- ・最後といっても、次第を見ると閉会しか残ってない。

<事務局>

- ・この次に説明をしようとしていましたが。

<青島部長>

- ・それじゃあ、その話を聞いてからでも結構です。説明を伺ってからでも結構なので。

<事務局>

- ・28年(度)から総合戦略が本格的に始まってまいります。今日のこの検証は27年度の実績として、まだ未確定な部分、見込みで数字を載せさせていただいている部分もありますが、27年度の検証をしていただきました。
- ・今後は毎年のように事業の検証をしていただきたいと思いますと考えております。28年度の実施事業の検証は、29年度に入って実績値が確定をしてから有識者会議を開いて検証をお願いしたいと考えております。ということは、28年は、有識者会議の予定はないということになります。
- ・28年に予定がないということは、今青島部長が言われたように、任期が2年ですので任期が切れてしまうということにもなりますが、うちのほうの考えでは、充て職の方以外はできるだけ再任をお願いをしたいと考えているところです。答えになっていますか。

<青島部長>

- ・先に説明を伺ってからと思ったので質問を言ってなかったのです。では、よろしいですか。そうすると、当然今回、総合戦略を策定するに当たって皆さんからご意見をいただいて策定ができました。で、この先行型交付金についても、今こういう実態ですよということで皆さんからご意見をいただいて、自分に関係するところは少し手直しをしていかなければいけないなという思いもあります。
- ・せっかく、金融機関の皆さんからそれぞれいろいろな分野の方が集まっている会議ってなかなかないと思うんですよ。総合戦略ということでお集まりいただいておりますが、これで28年度は(会議が)なしというのはもったいない話だなと思うんですね。事務局は大変でしょうけれども。
- ・この総合戦略で決まったことは行政がやることばかりなんですか。行政がすべてやっていくという話ですか。そこを、実際これだけの皆さんがお集まりいただいているのであれば、それぞれの分野でもできそうなこともあるのではないかなという気がするんですね。行政だけがこれに従ってやっていけばこの目的は達成できるのではなくて、特に自分なんかは金融機関の支店長さんなんかとお話をする機会もあって、それぞれの金融機関さんも総合戦略というのをなんとか生かそうされているところが多いんですよ。
- ・だから、なんかもう少しできるところをお互いに補完し合って、この総合戦略を実現に向けていけないものかなという思いがあるものですから、策定で終わるのではなくて、それこそこのメンバーは策定で終わりみたいな感じになってしまうので、もう少しその後につながったほうが。

- ・ 中間でというと、また大変な話ですが、われわれ、自分も大変ですが、そういう何かかたちでご意見をいただくとか、逆にこういうことはできませんかねというような、そういう会議にできないものかなと思ひましてちょっと伺おうかなと思ひました。
- ・ 言ったように代わってしまいますよね。自分たちも代わる可能性が十分あるし、皆さんなんかは、異動があれば代わられる方が多い。そうすると、せっかく策定のときに皆さん理解をされてご意見をいただいたのに全くリセットされてしまう可能性があるんで、そこは引き継ぎをやっていただくしかないとは思ひますが、そういう心配を感じましたので言わせていただきました。以上です。

<事務局>

- ・ まず、今回策定しました総合戦略につきましては、毎年の検証を重ねて日々進化させていくのはやぶさかでないと考えているところです。
- ・ したがいまして、皆さまからいろいろなご意見、こんな事業展開があったらいいねというのがあれば、また機会があれば皆さまと検証しつつ総合戦略の中に盛り込んで事業展開をしていくことは当然可能だろうというふうには考えております。

<青島部長>

- ・ では、やってと言えやってくれるということ？ 例えは誰か委員からでもいいですが、やったらどうですか。

<事務局>

- ・ せっかくの有識者会議ですので、それは構わないと思ひます。
- ・ ただ、要は、例えは、青島さんのところの商工サイドで問題があって、ぜひともこういうことを議論してほしいということがあれば、それこそ各分野の代表の方ですので、お願いをして、それについて集まっていたらご意見をいただくとか、その辺はお願いをすれば、僕は、問題はなと思ひます。
- ・ ただ、それを総合戦略有識者会議として開催するのが妥当かどうかというのはもう一回検証が要ると思ひます。まるきり違う話で何かに特化しての話になってしまうとあれなので。

<青島部長>

- ・ 例えはこの中に載っているようなことと言え有識者会議でできるでしょうか？

<事務局>

- ・ 総合戦略の話でしたらね。総合戦略と全然違うところの話だとちょっとあれなので。

<青島部長>

- ・ 策定に関する事項と、推進に関する事項があるのだから、推進に関する部分で。今日で終わってしまうと、推進というところはほとんどかわらずに終わってしまうのではないですか。

<青島部長>

- ・ その紙はさっきあるように先行型交付金のメニューの結果なので、もっと総合戦略自体の話はあるべきだと思ひます。

<事務局>

- ・28年の実績を29年度に効果検証を皆さまにお願いしたのは、この戦略に盛り込まれている事業全体の検証のお願いをしたいということになります。
- ・当初定めたKPIがふさわしくなかったり、こんな事業ではなくてもっとほかの事業でということになれば、当然戦略の中に盛り込んでいきますし、修正をかけていきますし、追加の修正、外す修正というのも考えられると思います。

<委員長>

- ・その議論ができるのは28年度が終了して実績値が出てからということになるので、29年度に入ってからということ。

<事務局>

- ・そうですね、28年度の戦略についてはここに書いてあることで一応確定はします。その年の途中で変えてしまうということはちょっとできないので、一応、1年経って、これが適正だったかどうかというの、また有識者会議の皆さんに集まっていたいただいて議論していただくというかたちにはなります。

<事務局>

- ・極端な話、28年度に展開したやつを29年の7月とか8月に見ていただいて、こんな事業が弱いのではないかという話になれば、もうちょっと予算を例えばある事業に特化してもっと厚く上げていく。そうすると30年の展開する事業に反映されていくというふうに、1年遅れにはなってしまいますが、そんな感じも可能性としてはあると思います。

<委員長>

- ・個別の施策を進めるときに、この委員の中で、特にご担当というか、ご専門の先生にご意見を伺うとか、そういうことぐらいなら可能なわけですね。非公式なかたちで構わないわけですが。全体で集まってという話ではないということですよ。

<事務局>

- ・もしくは、書面で皆さまにご意見を伺いするという方法も可能です。

<伊藤委員>

- ・そのときにはまた呼び名を変えるよね。有識者会議というものを変えなければいけない。検討実証委員会に名前を変える（んですね）。

<事務局>

- ・名前は有識者会議でいいと思います。

<事務局>

- ・総合戦略に関することであれば「総合戦略有識者会議」でいいと思います。

<伊藤委員>

- ・先ほど予算のことを言いましたが、まず、先行型が1,800万円の予算で国に提出する。

<事務局>

- ・国からもらって展開をしてきました。

<伊藤委員>

- ・28年度にはまた同じ予算の枠でこの28年型を進めていくということによろしいです



か、

<事務局>

- ・総合戦略の中に盛り込まれている事業というのはすべて予算がありますので、それはそれで展開をしていきます。
- ・市のお金として展開をしていきますが、市のお金を補填する意味合いで国から補助金をもらうというのはまたちょっと別の話になります。

<伊藤委員>

- ・市の予算はもうついているということですが、どれくらいの金額の予算がとれるのかというのは何かで見ることができるのでしょうか。

<事務局>

- ・今、まだ。来週決定で。細かくずばりこの事業に幾らというのはなかなかわかりにくいと思います。

<伊藤委員>

- ・全体でということですね。

<事務局>

- ・ええ。こういう総合戦略という名称では、予算はとってないです。どなたでも見られる予算書の中ではなかなか読みとれないかなという気はします。

<伊藤委員>

- ・一番わかりやすいのは、旧の事業のバス運行事業は、一応市民は大体知っていると思いますが、年間5,000万円ぐらいでしたね。
- ・今度は、ここでは言いにくいですが、病院の改築費が6,700万かかるのですが、28年度、今年度で。わからないね。すみません、余分なことを言いました。

<委員長>

- ・とにかく（１）と（２）の質疑に関しては一応出尽くしたかなと思います。本日予定しておりました議事としては、この（１）、（２）の質疑に関してということですので、予定していた議事としては以上となります。皆さん、ご協力ありがとうございました。それでは事務局にお返しいたします。

#### 4. 連絡事項

検証は、毎年実施する。平成28年度の結果が出る平成29年度はじめに検証をお願いすることになる。また、年度途中においても、総合戦略の推進上、相談が必要な場合は、事務局より、連絡することもある。

#### 5. 閉会

(以上)